

# 嶺 鳳(れいほう)

育成者：J A一宮およびJ A東山梨

かつき」の選抜

来歴：「あかつき(白桃×白鳳)」  
の枝変わりである「大玉あ

育成地：山梨県東八代郡一宮町

## 特性

### ■栽培特性

樹姿は中間で、樹の大きさは「あかつき」程度、樹勢は中庸である。枝梢の大きさおよび節間長は中である。若木時には直立するが樹齢を経るにしたがい開帳性を示す。花芽の着生は多く、花は普通咲き、花の大きさは中で、花粉を有し、結実は安定している。葉身の形および葉の大きさは「あかつき」と同様である。生理的落果および核割れは少なく(ただし、年により6月10日すぎの落果発生有り)、裂果は微である。成熟期は「浅間白桃」より4～5日遅く(「大玉あかつき」の熟期の遅い系統を選抜)、111～120日の範囲にあり、育成地においては7月下旬～8月上旬に収穫となる。(「長沢白鳳」の成熟期に近い)「浅間白桃」、「長沢白鳳」と成熟期は重複する。

### ■果実特性

果実は円形で、果頂部の凹は中である。果皮の地色は乳白であり、果実の着色は良く、やや濃く、着色の形はぼかして、着色は容易である。果実の大きさは大で300g以上となる。果肉の色は乳白、果肉の着色は少、核周辺の着色は少ない。果肉は密で、繊維が比較的少なく、ややゴム質に感ずる。糖度は13度以上で年により15度以上を示す。早どりすると酸味を感ずるが、成熟するとほとんど酸味は感じない。渋みや苦みはなく香気は中程度である。日持ち性は良い。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病虫害に対しては他の品種と比較し、特に大きな差異はなく、灰星病、黒星病、せん孔細菌病、アブラムシ類、カイガラムシ類、シンクイムシ類などの主要病害虫については十分な防除対策が必要である。本品種は果肉がややゴム質であり、有袋栽培においては年により果肉障害(仮称みつ症)が発生することもあるので、栽培管理および収穫時期には特に留意する。また、樹齢が進むと葉芽が飛びやすく、樹勢が低下すると「浅間白桃」同様に果頂部に小ヒビ(微裂果)を生ずるので留意する。

### ■地域適応性

本品種は平成7年に山梨県の奨励品種に選定されており、もも栽培が現在行われている地域での適応性は十分にあると思われる。梅雨明けに収穫期を迎えるので、品質が安定し、果実も大きく、無袋栽培が可能な品種であるだけに今後の栽培の増加が期待されている。

なお、本品種は種苗法による種苗登録はされておらず、現在においてもより良い形質を持った系統の選抜を進めている。

(遠藤 久)